

長崎県内の戦時期地形図における要塞地帯の表現と戦時改描 ——地理・歴史教育における活用を視野に——

大平 晃久（長崎大学教育学部）

I はじめに

戦前の日本では、軍港や重要な海峡といった要塞地帯などを描いた一般向け地形図は刊行されていなかった。また、太平洋戦争前には地形図から軍事施設などを消し去る戦時改描が行われるようになった。こうしたことは、ある程度は知られているといえよう。特に、地理学や地理教育の世界では常識といえるかもしれない。戦時改描は地図の政治性を示す学習材として高校地理 A の教科書の 1 冊¹⁾にも取り上げられている。また近年、山田は大量の戦時改描図の検討を通して戦時改描図の時期的な変遷を明らかにし、戦時改描図を体系的にとらえ直す視野を提供している²⁾。

本稿は、長崎県内の 2 万 5 千分の 1 地形図と 5 万分の 1 地形図に、20 万分の 1 帝国図（戦後の名称は「地勢図」）も加えて、要塞地帯など³⁾がこれら地形図にどう表現されているか、また、具体的にどのような戦時改描が行われたかを示していく。このような解説を行う理由として、上述した近年の研究の進展のほかに、次の 2 点をあげておきたい。1 つは、高校地理教科書に取り上げられているように、要塞地帯や戦時改描自体が地図の本質や日本の総力戦体制の理解という点から、そして地理や日本史の学習材として意義あると考えるからである。にもかかわらず、十分に知られているとはいいがたい。

もう 1 つは、地形図の利用にあたって要塞地帯の表現と戦時改描にかなりの注意を払うことが求められ、適切な解説が必要であるためである。旧版地形図はある地域を歴史地理的に捉えようとする際には欠かせない資料である。また、中高の地理や中学歴史・高校日本史では、新旧地形図を比較し、その地域の変化を考察する学習活動がしばしば行われる。そして、旧版地形図の利用は、ネットの普及などによって、かつてに比べてかなり容易になった。出版物では、古くから『日本図誌大系』が広く用いられ、『日本列島二万五千分の一地図集成』もある⁴⁾。ウェブ上で多くの旧版地形図を閲覧・ダウンロードできるサイトは、「今昔マップ」⁵⁾のほか、「Stanford Digital Repository」⁶⁾、「日本版 Map Warper」⁷⁾など数多い。しかし、「今昔マップ」が戦時改描図に「戦時改描の可能性」と注記を付けて表示しているのを除けば、いずれの出版物・ウェブサイトとも、戦時改描図が何の説明もなく混在している。また、それらの出版物・ウェブサイトでは、当時の一般人はみることもできなかった要塞地帯などの「秘図」（陸軍部内用）が当たり前混在している。戦時改描図を実際のその地域の姿であるかのように、また戦前・

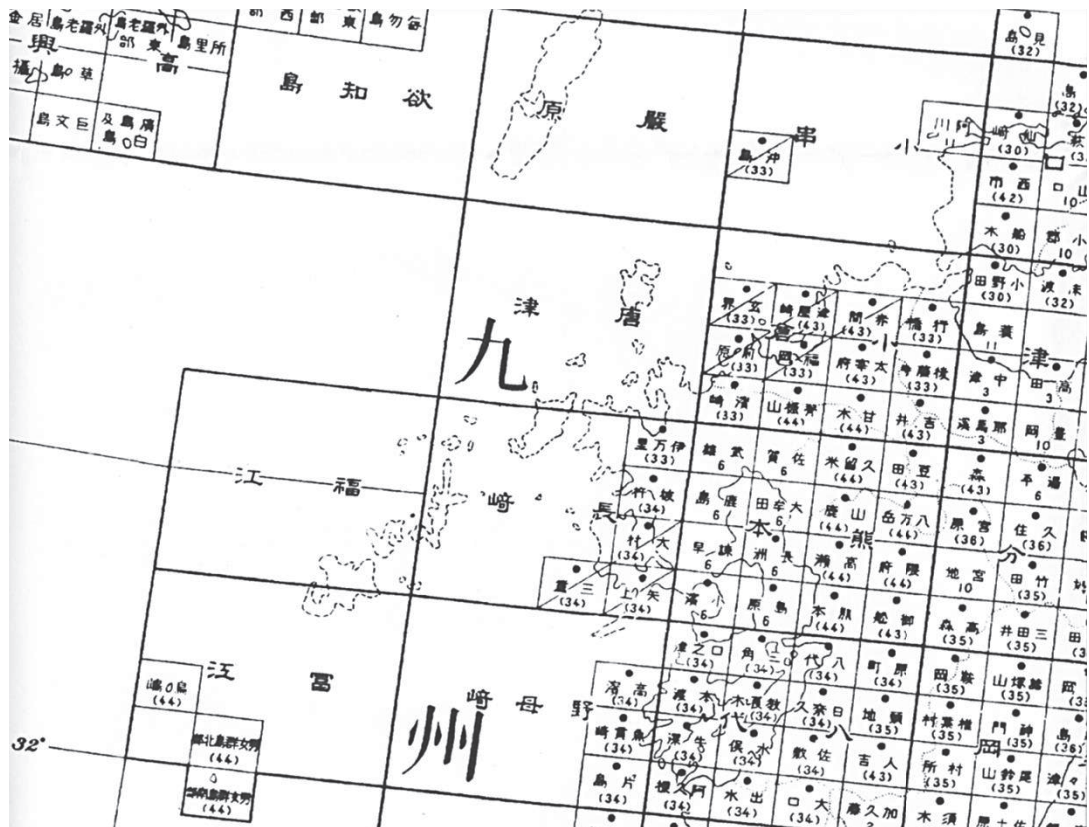


図1 大正末の5万分の1地形図一覽図（一部）

一般向け販売図の一覽。長崎県内の一般販売図幅は少なく、しかも、「伊万里」、「彼杵」、「矢上」では要塞部が空白になっていた。陸地測量部『陸地測量部出版地図区域一覽図』陸地測量部、1925。

戦中でも日本中くまなく地形図が発行されていたかのように、誤解してしまう可能性は高い。

II 要塞地帯

図1は大正末（1925年）の一般向け5万分の1地形図一覽図（一部）である。当時、5万分の1地形図はすでに全国をカバーしていた。しかし、長崎県域をみると、一般向けに販売されていない地域がかなりの部分を占めていたことがわかる。これらの地域では5万分の1地形図が作成されていないのではなく、陸軍部内用の秘図としてのみ作成されていた。なお2万5千分の1地形図も同じ範囲が秘図区域であり、戦前に長崎県域で一般向けに販売されていた図幅はごくわずかであった⁸⁾。さらに、一般向けに刊行されているとはいえ、図2の5万分の1「彼杵」図幅のように空白の地域を含む図幅もあった⁹⁾。こうした秘図区域や刊行図中の空白地域が、要塞地帯やその周辺を意味することはいうまでもないだろう。

長崎県内には、対馬要塞（1887年建設開始）、佐世保要塞（1897年建設開始）、1936年に長崎要塞に編入）、長崎要塞（1898年建設開始）、壱岐要塞（1924年建設開始）があった。要塞地帯では、写真撮影やスケッチが禁じられ、絵葉書や市街地図の刊行には要塞司令部の許可が必要であった。こうした要塞地帯周辺と福

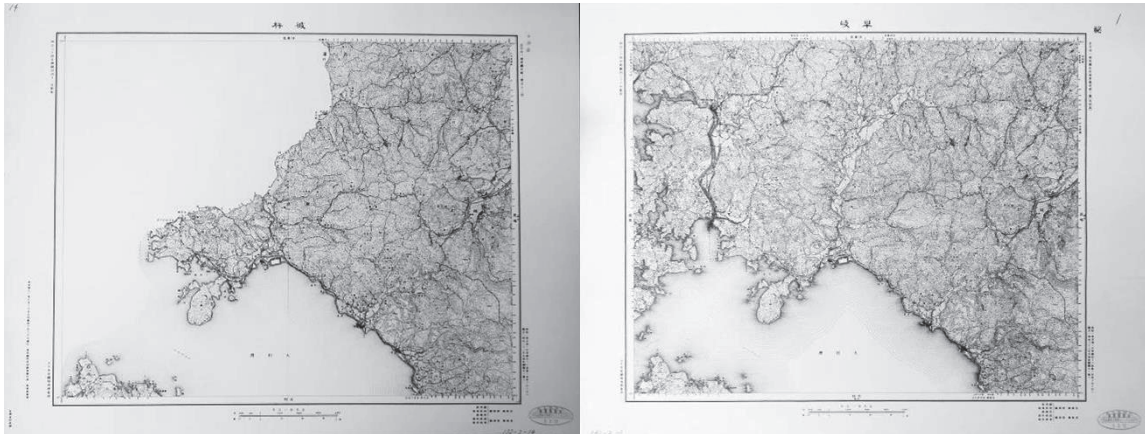


図2 一般販売図の5万分の1「彼杵」と秘図の同「早岐」

ともに1910年測図。左の「彼杵」の現物は3色刷で、要塞部が空白になっている。右の「早岐」には図郭右上に「秘」とある。

江島付近が県内では地形図の販売されない秘図区域になっていた。なお平戸など県北部は、壱岐要塞の整備が決定したのちに秘図区域に編入されている¹⁰⁾。上で紹介した、出版物やウェブサイトで見ることができる長崎県内の戦前の地形図の多くは、元来は秘図である。かつて毒ガス工場のあった広島県の大久野島は「地図から消された島」としてよく知られている。しかし、長崎も、佐世保も、平戸も壱岐も五島も対馬も、同様に「消された」存在であったことは、もう少し記憶されてもよい。

Ⅲ 戦時改描

長崎県内で戦時改描が確認できる地形図を表1にまとめた。上でみたように、長崎県内の広い範囲がそもそも地形図の一般向けに刊行されていない要塞地帯などであったため、戦時改描図は多くない。

まず、2万5千分の1地形図からみていく。戦時改描が確認できた長崎県内の2万5千分の1地形図は「武留路山」図幅のみであり、図3に「正常な」図と改

表1 長崎県内の戦時改描図

地形図の種類	図幅名 ¹⁾
2万5千分の1地形図	武留路山〈集・Sに参謀本部図あり〉
5万分の1地形図	諫早〈Sに参謀本部図あり〉, 彼杵, 大村〈Sに参謀本部図あり〉, 矢上
5万分の1地形図(1943年~製版) ²⁾	(伊万里), 早岐, 大村, 長崎
20万分の1帝国図	八代, 唐津〈Sにあり〉, 長崎〈Sにあり〉, 厳原, 福江, 富江

1) 現物未確認の図を含む。また、利用の便のため、出版物やウェブサイトの掲載情報を示した(集:『日本列島二万五千分の一地図集成』, S: "Stanford Digital Repository")。なお、参謀本部図は本来、改描の必要はないが、改描図が含まれている。上記のほか、地形図の定価表示に改描必要なしを示す[]が付けられた図に、5万分の1「肥前小濱」〈Sにあり〉, 20万分の1「野母崎」がある。

2) 「伊万里」の改描は佐賀県域の一部のみで、長崎県域はすべて「交通図」。

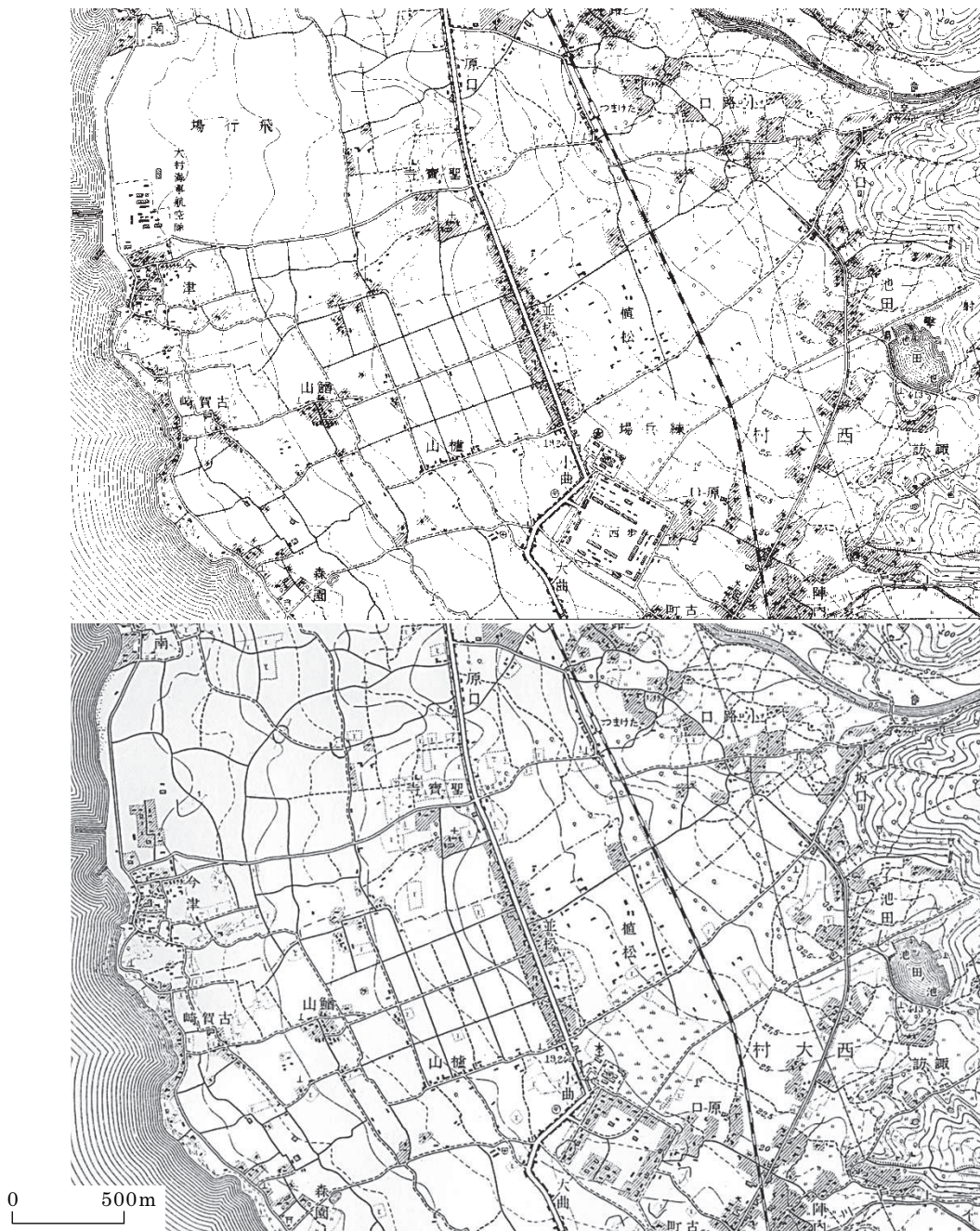


図3 2万5千分の1「武留路山」の戦時改描

上が「正常な」図，下が改描図で校正刷のため書き込みあり。80%に縮小。

描図（校正刷）を並べて示した。一見してわかるように，軍事施設の注記が消され，歩兵連隊と海軍の飛行場がともに畑¹¹⁾と集落にカモフラージュされている。ただし，歩兵連隊司令部の「陸海軍官衙」の記号は省略されていないため，軍関係の施設であることには気づきやすいだろう。なお，一般販売された改描図には改描を含むことはもちろん明記されておらず，この「武留路山」図幅の場合，大正13年測図・昭和2年5月30日発行の「正常な」図の増刷として刊行されている¹²⁾。測図年や発行年では戦時改描図をみわけられないので注意が必要である。

次に，5万分の1「諫早」をみる。図4には，5万分の1「諫早」の改描がなさ

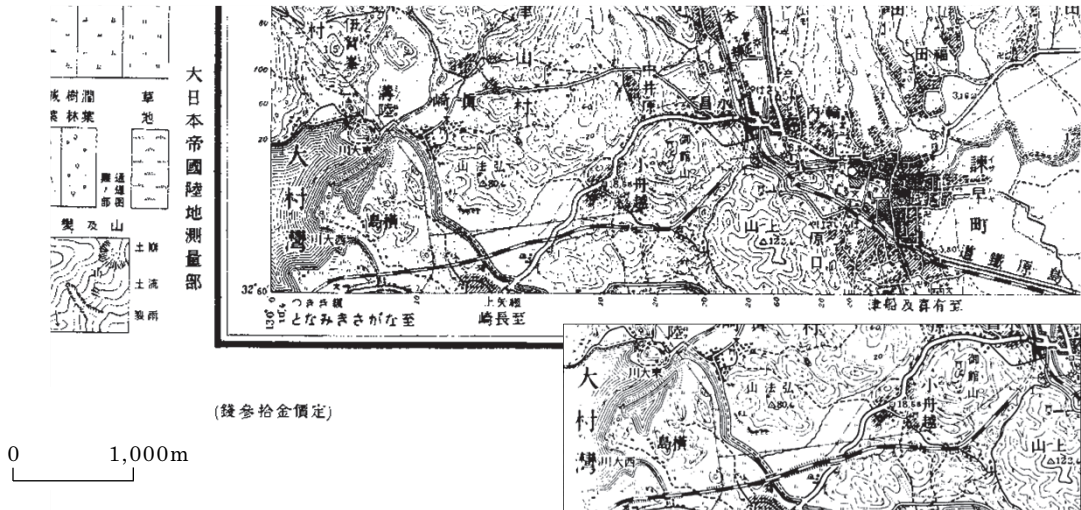


図4 5万分の1「諫早」の戦時改描

上が改描図，右下が「正常な」図（1926年修正測図）。80%に縮小。

れている部分について「正常な」図と改描図を比較した。図郭下の定価表示に付けられた（ ）は改描ありを示すサインである。ただし、「諫早」図幅には軍事施設も軍需工場も含まれていない。図を眺めてもそれらしい箇所には気づきにくいですが、些細なことではあるが、鉄道（長崎本線）が改描されていることがわかるだろうか。諫早駅から西にかけて、鉄道の盛土や切土が削除され、道路との立体交差が平面交差に改められている。重要インフラである鉄道が攻撃・破壊目標とされないよう、正確な情報が隠蔽されているのである。

山田によれば¹³⁾、地形図の改描は1937年夏ごろから始められた。当初の改描対象となったのは、皇室や軍事施設・軍需工場のほか、通信施設や発電所・変電所、ガス・石油タンクや日本銀行などの重要インフラである¹⁴⁾。さらに、1939年夏ごろからは上記の定価表示で改描ありを意味する（ ）と、検討したが改描の必要なしを示す[]が区別されるようになった。同時に、多種類に分かれていた陸軍施設・海軍施設の記号が「陸海軍官衙」に統合された。これらは戦時改描図の多くに共通する最もわかりやすいポイントである（図5）。一方、鉄道の立体交

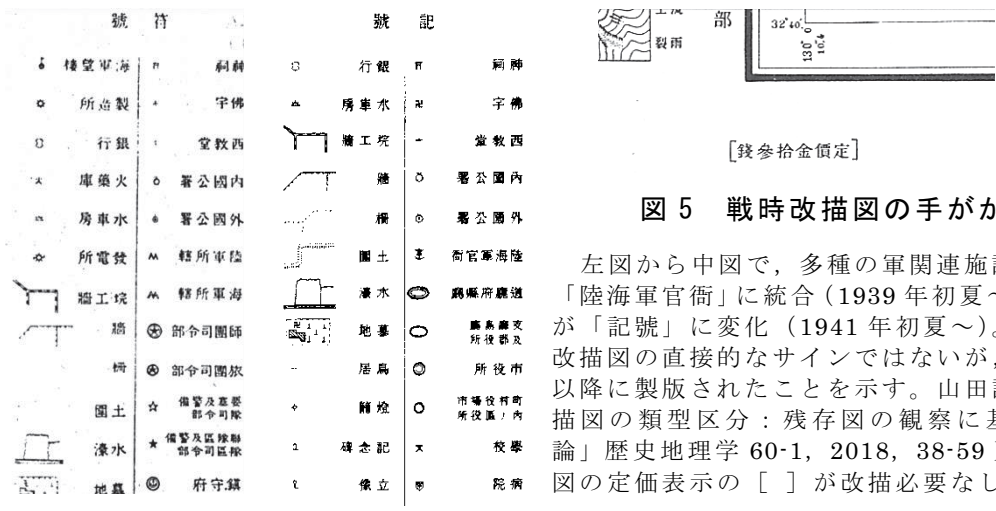


図5 戦時改描図の手がかり

左図から中図で、多種の軍関連施設の記号が「陸海軍官衙」に統合（1939年初夏～）、「符號」が「記號」に変化（1941年初夏～）。これらは改描図の直接的なサインではないが、その時期以降に製版されたことを示す。山田誠「戦時改描図の類型区分：残存図の観察に基づく一試論」歴史地理学 60-1, 2018, 38-59頁。なお上図の定価表示の[]が改描必要なしのサイン。

差表記、盛土や切土の改描は、1942年の夏あるいは秋以降に始まったと山田は推測している¹⁵⁾。5万分の1「諫早」改描図ではこうした鉄道の改描がおこなわれている一方で、1941年初夏以降に通常はみられなくなる特徴を有する¹⁶⁾。この5万分の1「諫早」はややイレギュラーな改描図であるのかもしれない。

なお、5万分の1地形図については、国土地理院に所蔵されていない図（戦時改描図は国土地理院に所蔵されていない、あるいは未整理で利用できないものが珍しくない）も含めて、目録が作成されている¹⁷⁾。しかし、2万5千分の1地形図についてはこうした目録化は行われていない。また、5万分の1地形図でも、



図6 1943年製版
5万分の1「大村」

校正刷で多数の書き込みがある。なお、図郭右上に「秘」と押印されているのは校正刷であるためで、陸軍部内用の「秘図」ではない。

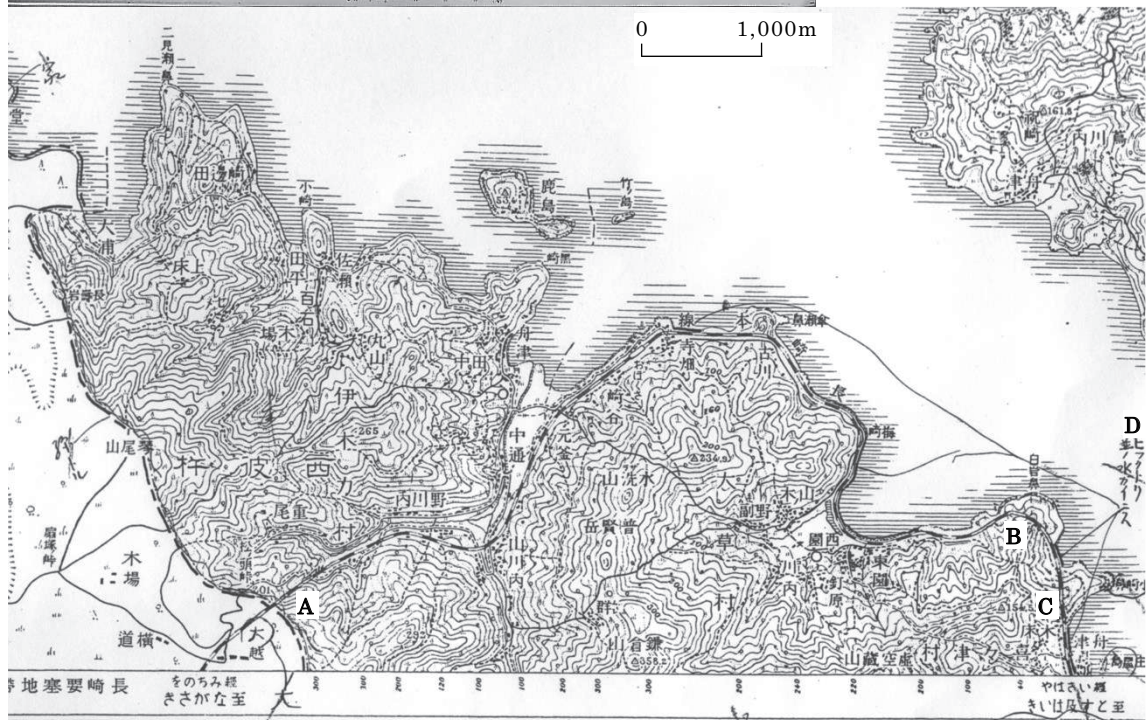


図7 1943年製版5万分の1「大村」の改描図部分

80%に縮小。図6の右下、現・諫早市西部から現・長与町境。左端は「交通図」部分（要塞地帯、現・長与町）。A～C：鉄道トンネル、D：校正指示「被覆取り、並の水界にす」

次の図 6 に示すのは目録に載っていない、刊行状況が不明なものである。

図 6 の 5 万分の 1 「大村」(1943 年製版, 校正刷) は, 一見して他の地形図とは違う特徴をもつ。まず, 図郭左上には測図の年次ではなく製版年のみが記されている。さらに, 等高線もなく, 海岸線も道路も粗い表現になった部分と, 通常の花形図の表現がなされた部分が 1 枚の図に同居している。粗い表現の部分は要塞地帯であり, この部分の地図表現は, 5 万分の 1 交通図としてそれまで刊行されていた図式に類似している。5 万分の 1 交通図は, 秘図区域である東京湾要塞地帯, 下関要塞地帯, 舞鶴要塞地帯について, 1930 年代に陸軍陸地測量部から一般向けに刊行されていた地図で, サイズは普通の地形図よりも大きく, 4 色刷であった。

一方, 通常の花形図の表現がなされた部分は, かなり改描が施されている(図 7)。すなわち, 鉄道の盛土・切土が消され, 道路と鉄道の交差部も立体交差か平面交差かわからないようにされた個所がある。さらに, 鉄道トンネルもなくなり, よくみるとかなり不自然である。海岸については校正指示の書き込みに「ヒフクトリ並ノ水カイニス」(被覆取り, 並の水界にす)とあり, 護岸などの海岸線の表記が改描の対象であったことがわかる。また, (図 7 の外であるが) 大村陸軍連隊司令部(「陸海軍官衛」)の地図記号も抹消されている。

国立国会図書館には, 1943~44 年に製版された長崎要塞地帯・壱岐要塞地帯の 5 万分の 1 地形図の校正刷が 9 図幅所蔵されている¹⁸⁾。なお, 9 図幅中の表 1 に掲げなかった「佐世保」, 「志々岐」, 「立串」, 「有川」は全面が「交通図」表現になっており, 「神浦」の非「交通図」部分には改描がない。長崎要塞地帯では他の都市部の要塞地帯のように 5 万分の 1 交通図がそれまで刊行されていなかったこと, 1940 年に長崎要塞地帯が拡大し¹⁹⁾, 従来は一般向けに刊行できていた図幅の要塞部を空白にしなければならなくなったことが, こうした地形図が企画された背景にあるのではないだろうか。上で述べたように, これら 1943 年以降製版の 5 万分の 1 地形図は一般販売に至っていないと考えられる。ただし, 内容は明らかに一般販売用に企画・制作されたものである。

最後に, 20 万分の 1 帝国図についてみる。先に, 5 万分の 1 地形図では相当広い範囲が秘図区域であったことをみたが, 小縮尺図である 20 万分の 1 帝国図は要塞地帯を含めて一般向けに刊行されていた。図 8 は 20 万分の 1 帝国図「長崎」の「正常な」図と改描図を対比させたものである。ともに, 要塞地帯には等高線が入っていない。2 枚を比較すると, 改描図では長崎港内の三菱長崎造船所, 上でみた長崎本線のトンネルが消されていることがわかる。また, 山地の地形表現がのっぺりとして, 地形を読みとれなくなっている。なお, 改描図では, 要塞区域が拡大したために, 等高線が消された範囲が広がった。海岸についても, 改描図では, 海食崖や砂浜海岸, 岩礁や干潟が読みとれない(上記図 7 中の表現を使うならば)「並の水界」になっていることがわかる。

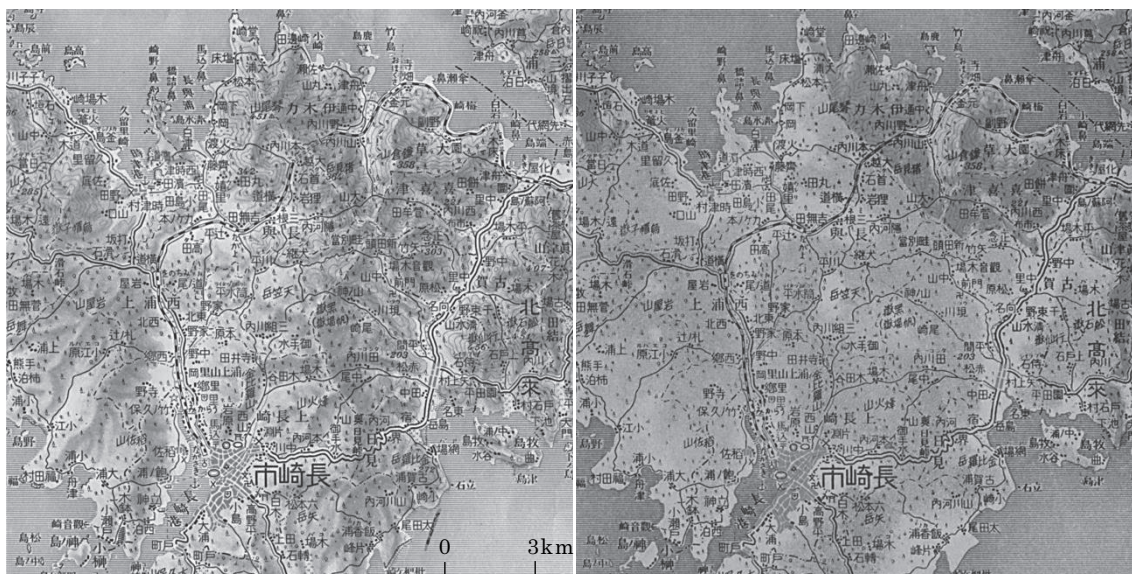


図 8 20 万分の 1 帝国図「長崎」の戦時改描

ともに 1928 年鉄道補入の図で、左は 1929 年発行の図、右は 1941 年発行の改描図。発行日は明示されており、要塞地帯の拡大にともなう「同時改描」図とよべよう。造船所や鉄道トンネルはもちろんだが、要塞地帯（等高線のない部分）が拡大するとともに、山地の地形が読めなくなっていること、海岸の地形も読めないようにされていることに注目したい。80%に縮小。

IV おわりに

以上、本稿では、長崎県内の地形図について、要塞地帯がどう表現されているか、また、具体的にどのような戦時改描が行われたか、解説を行った。地形図の一般販売されない要塞地帯などの秘図区域とその拡大を示し、また戦時改描図を一覧にして示したうえで、従来紹介されていない図も取り上げることができた。学校現場を含む旧版地形図ユーザーに向けて有用な情報を提示し得たと考える。

ただし、2 万 5 千分の 1 地形図については、あるいはまだ未発見の改描図があるのかもしれない。また、定価表示に改描必要なしというサインの [] が付けられた図の探索も不十分である。さらに、1943 年以降製版の「交通図」と組み合わせた 5 万分の 1 地形図の解明も求められよう。これらは他日の課題としたい。

注

- 1) 竹内裕一ほか『高等学校現代地理 A 最新版 (第 3 版)』清水書院, 2015, 136-137 頁。
- 2) 山田誠「戦時改描図の類型区分: 残存図の観察に基づく一試論」歴史地理学 60-1, 2018, 38-59 頁。
- 3) 秘図とされたのは厳密には要塞地帯だけではなく、福江島や南西諸島なども該当する。ただし、以下では、要塞地帯が地図にいかに表示されているかという説明に主眼を置くため、「要塞地帯 (など)」と「秘図区域」をほぼ同一のものとして述べる。
- 4) 山口恵一郎ほか編『日本図誌大系 九州 I』朝倉書店, 1976。普及版も内容は同じで、長崎大学附属図書館など所蔵先は多い。日本列島地図資料研究会『日本列島二万五千分の一地図集成第 5 巻』科学書院, 1994。長崎大学附属図書館など所蔵、ただし、長崎県内の地形図は少ない。また、出版物ではないが、国土地理院、国立国会図書館に地形図の複写を申し込むことができる。
- 5) 「今昔マップ」<http://ktgis.net/kjmapw/index.html> (2021 年 3 月 12 日閲覧)
- 6) “Gaihōzu: Japanese Imperial Maps” <https://stanford.maps.arcgis.com/apps/PublicGallery/index.html?appid=1ed3022fc7884690a2f137bce9dfe4fe> (2021 年 3 月 12 日閲覧)
- 7) 「日本版 Map Warper」<https://mapwarper.h-gis.jp/maps> (2021 年 3 月 12 日閲覧)。ただし掲載地形図には“Stanford Digital Repository”の再録も多い。
- 8) 1933 年の販売リストによれば、「湯江」、「諫早」、「愛野」、「金比羅岳」、「彼杵」、「武留路山」、「大村」、「長与浦」、「三重」の 9 図幅 (ただし未測量の空白部分を含むものあり)。陸地測量部『陸地測量部発行地図目録 (昭和八年九月末日現在)』陸地測量部, 1933。
- 9) 「彼杵」のほか、「矢上」、「伊万里」(後述)、「江迎」(同)、「脇岬」(同)の各図幅。このうち、「矢上」図幅は秘図の「長崎」図幅から要塞地帯である長崎市街とその周辺を削除したものである。1940 年に長崎要塞の区域がさらに拡大したため、その時点で「矢上」図幅も販売できなくなったと思われる。
- 10) 秘図の 5 万分の 1「佐世保」図幅は佐世保市街やその周辺を空白にして「江迎」図幅として刊行されていたが、それも刊行されなくなった。同様に、「伊万里」も空白部分が拡大している。また、長崎要塞の南部にあたる、秘図の 5 万分の 1「野母崎」図幅に空白を入れた「脇岬」図幅も刊行されなくなった。
- 11) 当時の図式では畑の地図記号はなく、空白で示されていた。
- 12) 山田はこのような旧版の増刷名目の改描を「遡及改描」とよんでいる。前掲 2), 以下同様。「武留路山」は 1939 年後半に大量に製版された遡及改描図の 1 つであった。一方、新規測図・修正に合わせて戦時改描が行われた図幅もあり、山田はこれを「同時改描」とよんでいる。遡及改描の場合は測図年や発行年だけでは戦時改描かどうか区別できないが、同時改描の場合は測図年・発行年が戦時改描図をみわけるカギの 1 つになる。なお、図 3 の「武留路山」改描図は校正刷であり、この図が一般販売されたかどうかはこれだけではわからないが、1939 年という早い時期に校正刷が出ていることから、一般販売されたと思われる (一般販売の完全停止は、山田によれば 1944 年夏)。
- 13) 前掲 2)。
- 14) 山田誠「戦時期の地図事情: 地形図の改描問題を中心として」龍谷日本史研究 40, 2017, 9 頁。
- 15) また、鉄道の単線・複線の区別はやや早く、1941 年初夏以降。前掲 2)。
- 16) 図郭右上の「五万分一地形図」という表記の文字が小さいこと、また、図郭右下の注記が「圖郭外右肩ノ地名ハ本圖所属二十万分一圖ノ名號ナリノ眞高ハ東京湾ノ中等潮位ヨリ起算シ米突ヲ以テ示ス」となっていること。前掲 2)。
- 17) 国土地理院地図部『(国土地理院技術資料 E・1・No.245) 5 万分 1 地形図作成・所蔵目録』日本地図センター, 1997。
- 18) 下関要塞地帯についても同様の 5 万分の 1 地形図が製版されている。
- 19) 内閣官房記録課編『現行法令輯覧 昭和 17 年 2 月現在 第 6 巻』帝国地方行政学会, 1942, 64 頁。